

地域住民にとって利便性の高い交通移動手段の確保に向けて

私たちの日常生活に欠かすことができない公共交通。通学や通院、買物など生活の足として大きな役割を果たしています。しかし、人口減少、少子化が続く中で利用者は減少傾向にあります。「利便性の高い持続可能な公共交通」を、今後どのように構築していくべきか。今月号では、郡上市におけるこれからの交通施策について特集しました。

市民参画を得て地域公共交通網形成計画を策定

郡上市では、平成22年度に「郡上市地域公共交通総合連携計画」を策定し、平成23年度から平成27年度までの5年間の計画(※1)として公共交通空白地の解消等に力を入れてきました。

今回、市としての新たな計画となる「郡上市地域公共交通網形成計画」を今年度中に策定することとし、現在、公共交通の現状調査や交通事業所などの関係者が集まる郡上市地域公共交通会議さらに、各地域単位での話し合いを含め、市民のみなさんの参画を得た計画づくりの作業を進めています。(※1：郡上市地域公共交通総合連携計画は平成28年度に変更を行い、計画期間を2年延長しました。)

将来の郡上市づくりと密接に連動する公共交通

利便性の高い持続可能な公共交通を実現するためには、国の方針や公共交通を取り巻く社会状況の変化に応じた実効性のある計画を策定する必要がありまます。では、これから郡上市にとって、どのような地域交通の施策が求められるのでしょうか。今年度策定する「郡上市地

八幡町小那比・野々倉地区では、昭和63年度から小那比自治バス運行組合が八幡市街地までを往復する「小那比ジャンボタクシー」を運行しています。運行の形態はデマンドバスで、組合がタクシー会社に運行委託をして行っているもので、市からは、運行実績により一定の補助金を出しています。運行は、毎週月・木曜日（一日一往復）となつており、運行経路は、小那

NPO法人ふる里めいほう
が果たす重要な役割

明宝地域を拠点に活動するNPO法人ふる里めいほうは、保健、医療、福祉の増進を図る事業の一環として、福祉移送サービスを行っています。この事業は、公共交通機関を利用するこ

に、市民のみなさんの意見や事業者等関係者のみなさんの考えを踏まえ、福祉や観光といった新しい視点を組み入れて総合的な計画を策定することとしています。ただ、私たちの暮らしに無くてはならない公共交通を維持していくためには、私たち自身が地域の状況を理解した上で、自ら地域を育て、その活動を実践する取り組みが大事になります。つまり、公共交通の計画をつくり実行することは、将来この地域をどうしていくのかということと密接に連動していると言えます。



▲小那比ジャンボタクシーを運行する運行組合の羽田野宗雄さん(右)と安田一美さん(左)



▲NPO法人ふる里めいほうが地域福祉を目的にサービスを提供する福祉移送サービス

とが困難な人に対して、決められた車両を使い自宅から病院や施設、買い物先などに移送する「有償」サービス（※2）で、ふる里めいほうでは平成22年度からこの取り組みを始めています。

NPO法人ふる里めいほうの代表を務める原義典さんは、「やり始めの頃と比べたら、ここ2、3年で利用者は大幅に増えました。地域のニーズの高まりを確かに実感しています。支える側のスタッフ不足や赤字解消などの課題は山積していますが、地域の「困った」を解決する様々な仕事を組み合わせ、交通弱者の足をしっかりと確保していきました。」と話されました。（※2）サービスの対象者は、要支援・要介護認定者、障害者手帳の交付を受けている人、民生委員から移送支援が必要と認められた人（証明が必要）となります。

利用するための年会費は千円。



郡上市全体の公共交通の拠点機能を持つ郡上八幡駅。
今後も乗り継ぎの利便性向上を目指していきます。

利用料は、移動する距離によって料金が定められています。）

私たち市民も一緒に育てたい」と思っています。そのため、地道な活動ではあります。

その地域に適した公共交通を提供していくことが求められます。そして何より大事なことは、今回紹介したような地域の資源（人材や団体等）が、地域のニーズ（通学、通院、買い物、福祉など）とうまく組み合わさり、事業継続を可能とする仕組みをつくることだと考えます。

今年度策定する「郡上市地域公共交通網形成計画」では、現状把握や分析等を行うとともに、市民のみなさんの話し合いを行って、最適で持続可能な公共交通あり方を明確化していく予定です。

郡上市の公共交通についてのお問い合わせ、ご意見は、市長公室企画課公共交通担当（☎ 67-1831）までお問合せください。

自分事として活動する 「まめバスを応援する会」

八幡市街地を中心に運行しているまめバス。コミュニティバスとして市が委託運行しています。赤、青の2つのルートがあり、毎日運行。運賃は百円です。このまめバスを支えている民間の任意団体として「まめバスを応援する会」があります。

継続の鍵は地域資源と 地域ニーズのマッチング

まめバスマップを独自に作成し、八幡市街地の見どころなどを観光客にも役立つ情報をぎっしり詰め込んでいます。「市民の足として、また観光客の気軽な移動手段として活躍するまめバス

をする想いを話されたのは、会員の大西春子さん。公共交通を自分の事として考える。こうしたことからはより大切になってきた



▲八幡市街地を運行するまめバス。最近では、観光客も多く利用しています。

郡上市公共交通関連予算（平成29年度）

単位：千円

項目	金額
自主運行バス運行経費	71,805
バス事業者路線運行補助経費	95,238
長良川鉄道施設・設備整備補助経費	91,352
公共交通計画策定及び地域公共交通会議経費	11,418
合計	269,813